

## 基準 6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

**観点 6-1-①：** 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

#### 【観点到係る状況】

教養教育及び各学科の専門教育について、教育目的、教育目標、教育内容を具体的に定め、その中で修得すべき能力や期待される人材などについて、募集要項・大学案内・学生便覧に掲載して受験生や入学生に示している。

その達成状況の検証・評価については、学期末試験・各種レポートや制作物による成績評価、あるいは学生による授業評価の分析、学科会議や教務委員会等における学生の現状に関する情報交換を通して検証に努めている。

総合的な達成状況の検証や評価のための取組としては、英語英文学科では「ゼミナール」の研究科目群、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科の3学科では「卒業研究」があり、一部のゼミでは学内で研究発表会を、生活デザイン学科では学外で卒業研究発表会を開催し、同時に卒業研究記録集を作成して公表している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学が養成しようとする学力、資質・能力の達成状況の検証については、学期末試験や各種レポート・制作物による評価などによって行い、総合的な達成状況の検証・評価のための取組としては、英語英文学科では2年生設置科目群「ゼミナール」、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科の3学科では「卒業研究」を実施している。一部のゼミではゼミ単位の卒業研究発表会、生活デザイン学科では学外における卒業研究発表会と作品展示会を実施している。さらに生活デザイン学科では卒業研究記録集及び要旨集を作成して、公表している。

以上のように、各学科において、少人数での卒業研究を行ったり、後述の学生による授業評価アンケートの実施などから、本学が養成しようとする学力、資質・能力の達成状況を総合的に検証・評価するための適切な取組が行われていると判断している。

**観点 6-1-②：** 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作等を課している場合には、その内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 【観点到係る状況】

国外留学や長期病欠など特別の事情がある場合を除き、殆どの学生は学期毎に必要な単位数を取得し、2年間で卒業に十分必要な単位数を取得して卒業している。また、必要単位数を満たせば得ることのできる資格は殆どの学生が取得して卒業している。さらに、努力目標として掲げている資格取得に挑戦する学生も多く、意欲的に学修に取り組む姿勢が随所に認められる。前の観点でも一部述べた卒業研究・卒業制作は全学科で課している。その研究の一部を学会で研究発表する場合や、制作作品がコンテストで入賞することもある。

英語英文学科では、卒業するまでに全員が英検 2 級以上と TOEIC 530 点以上を目指している。資料 6-A に、過去 5 年間の英語英文学科卒業生の英検 2 級と TOEIC の成績を示す。

資料 6-A 過去 5 年間の英語英文学科卒業生の英検 2 級及び TOEIC の成績

卒業年度	英検 2 級		TOEIC	
	合格者数	取得率	平均点	最高点
平成 16 年度	45	91.8%	563	810
平成 17 年度	49	92.5%	579	835
平成 18 年度	48	94.1%	583	875
平成 19 年度	52	94.5%	584	850
平成 20 年度	56	90.3%	585	895

(出典：大学説明会での説明資料)

英検 2 級は殆どの学生が合格し、日本英語検定協会から奨励賞や努力賞の表彰を受けている。TOEIC でも 530 点以上という学科の目標はほぼ達成している。さらに、「ゼミナール」を始めとする少人数教育で培われる英語力を生かして、四年制大学への編入を希望する者も多く、就職希望者も含めてほぼ全員が進路を決定して卒業している。また情報処理関連の検定など就職活動に有利な資格取得に挑戦する学生も多い。

国際文化学科では、英語はもとより韓国語、中国語などの語学検定を積極的に受検する学生や、異文化研修でアメリカ、韓国、中国への海外研修に参加する学生も多い。卒業研究では、卒業論文をまとめるか、ホームページなどの作品を制作している。学生の情報関連の資格については、日本語ワープロ検定 2 級以上、情報処理技能検定（表計算）2 級以上取得を目標に掲げているが、過去 5 年間の取得状況は資料 6-B に示すとおりである。他にもホームページ作成検定、データベース検定、プレゼンテーション検定の資格に挑戦するものもいる。

資料 6-B 過去 5 年間の国際文化学科卒業生の情報処理関連資格取得状況

卒業年度	日本語ワープロ					表計算			卒業者数
	準 2 級以上	取得率	2 級以上	取得率	内 1 級	2 級以上	取得率	内 1 級	
平成 16 年度	49	75.4%	28	43.1%	0	53	81.5%	15	65
平成 17 年度	50	68.5%	29	39.7%	4	37	50.7%	13	73
平成 18 年度	55	82.1%	22	32.8%	3	52	77.6%	9	67
平成 19 年度	52	74.3%	29	41.4%	8	54	77.1%	21	70
平成 20 年度	51	70.8%	36	50.0%	5	40	55.6%	19	72

(出典：平成 16 年度～平成 20 年度国際文化学科卒業生の情報関連資格取得者一覧表)

食物栄養学科では、入学する学生の全員が栄養士資格取得希望者である。本学では厚生労働省で定めている必要単位数に加え、健康・栄養の専門分野でさらに進んだ学科目を設定して、管理栄養士レベルの高い知識力・専門力を有した栄養士養成に努めている。2 年次は全員に卒業研究を課して、より深い専門教育を行っている。研究室によっては、その成果を学内公開発表会で発表し、研究内容や水準を高める努力をしている。その成果もあり、過去 5 年間では 2 名を除いて、全員が栄養士資格を取得して卒業している。また情報処理関連の検定にも積極的に挑戦させて、毎年日本情報処理検定協会の表彰者を多数出している。

生活デザイン学科では、平成 19 年度入学生から、入学時の希望により、4 コースに分けて専門教育を行っている。受験生の多様な要望に対処でき、より専門的な少人数教育が可能となった。また、演習・実習科目を多く設定し、基礎力から応用力まで段階を踏んで修得できるようにした。地域地場産業や行政機関との連携を深めた、

より実践的な教育も積極的に行い、平成 15 年度には公立短期大学の中で最初に特色 G P に採択された。衣料管理士資格、建築士受験資格を始めとして、色彩検定、ファッション販売能力検定、パターン検定、CG 検定など、積極的に資格取得を目指す学生も多く、色彩検定では成績優秀ということで団体表彰を受けている。また、他学科と同様卒業研究や卒業制作を全員に課しており、学外における卒業研究発表会、制作品展示会を実施し、市民に対して恒例行事になっている。学生は卒業に十分に足る単位を取得して卒業している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学の過去 3 か年における各学科の退学者は、資料 6-C のようである。全体では入学者の 1% 程度と大変少なく、入学者の殆どが卒業している。免許・資格取得の観点からは、栄養士資格取得が教育目標の根幹をなす食物栄養学科だけではなく、英語英文学科の英検、生活デザイン学科の衣料管理士を含め、殆どの資格取得希望者が免許資格を取得して卒業していることから、教育の成果や効果は十分上がっていると判断される。

資料 6-C 過去 3 年間の退学状況 (合計の欄の( )内数字は在学者に対する割合(%))

年 度	英語英文学科	国際文化学科	食物栄養学科	生活デザイン学科	合計 ( % )
平成 18 年度	4	1	2	6	13 (2.54)
平成 19 年度	0	1	0	4	5 (0.94)
平成 20 年度	0	2	1	1	4 (0.75)

(出典 学生異動関係書類)

英語英文学科では、専門教育を行う中で実践力をつけるために目標としている TOEIC 530 点以上に対し、平成 20 年度に平均点 585 点の高得点をあげており、最高では 895 点をとった学生もいる。英検 2 級の取得率も 90.3% であり、準 1 級も平成 20 年度には 3 名の合格者を出すなど、学習意欲の高さが判断できる。在学中の専門教育に対する意識付けや動機付けが功を奏して、四年制大学への 3 年次編入希望も増加しており、過去 5 年間の平均では毎年 11 名になり、そのほぼ全員が希望をかなえて進学している。

国際文化学科では、アメリカ、中国、韓国に姉妹校提携の大学があり、アメリカへの語学研修を始め、中国・韓国への異文化吸収の海外研修に、学生は積極的に参加している。また、情報処理関連の検定に関しては、資料 6-B のような取得状況である。全員が日本語ワープロ検定 2 級以上、情報処理技能検定 (表計算) 2 級以上合格を目指しているが、目標を達成できているとは言いがたい。ただ毎年数名の学生は、日本情報処理検定協会から会長賞、検定委員長賞を受賞し、一定の教育効果をあげている。これらの目標は努力目標とただで学生に動機付けとしては弱かった。今後は、より明確な目的意識を持たせた指導が必要である。中国語に関しても、平成 20 年度から中国語専任教員を採用して、検定試験の受験を本格化させており、数年のうちにはその成果が現れると期待している。

食物栄養学科では、過去 5 年間に 2 名を除く卒業生全員が栄養士資格を取得している。卒業時の取得単位数の平均値は 77 単位を越え、密度の濃い教育が効果をあげている。平成 18 年に実施された岐阜スローフードコンテストでは準グランプリを獲得するなど、対外的な実績も着々とあげ、日常の教育効果があがっている。

生活デザイン学科では、地域の産業や行政と連携して、より実践的な教育を実施してきた。平成 15 年にはその成果が認められ、「デザインを通じた地域との連携による教育」が特色 G P に採択された。またキャンパスガイドの学科案内にあるように、2 級衣料管理士資格・二級建築士受験資格取得を始めとして、さまざまな資格取得を目指す学生が多く、教員の側面的支援体制も整えて教育効果をあげている。平成 21 年度からは、公立短期大学で

は唯一の一級建築士の受験資格が得られるカリキュラムによる教育も始まった。さらに毎年さまざまなコンテストへの入賞も数多く、ファッション系・インテリア系の実践的教育を行う数少ない公立短期大学のひとつとして、その教育効果や成果を十分にあげている。

**観点 6-1-③： 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。**

**【観点に係る状況】**

本学では、平成 13 年度から「学生による授業評価」を実施して授業改善を図っている。現在では、一部の科目を除いて殆ど全ての科目について学生の授業評価を行っている。評価結果について、科目担当教員は、所属する学科の平均値と比較したり、過去の授業評価結果と比較して、その年の特徴を分析して、「授業評価に対する分析と今後の対応」という授業改善計画書を作成して学長に提出し、次期の授業に生かすべく努力している。

例えば、平成 19 年度前期終了時に実施した、「学生による授業評価」の「総合評価」の結果を、各学科ごとに見ると、「まあまあ」も含めて「満足」と答えた者が、英語英文学科で 59.3%、国際文化学科で 60.7%、食物栄養学科で 61.5%、生活デザイン学科で 64.0%であった。「やや」も含めて「不満」と答えた者の合計は、英語英文学科で 9.5%、国際文化学科で 8.7%、食物栄養学科で 9.2%、生活デザイン学科で 6.7%であった（後述の資料 6-D を参照）。また、生活デザイン学科が平成 19 年度に実施した卒業時の満足度調査結果によれば、本学のカリキュラム編成に満足していると答えた者が「大変」と「ほぼ」を合計すると 67.8%になっており、「やや不満」と答えたものは 1.7%、「不満」と答えた者はゼロ%の低率になっている（後述の資料 6-F を参照）。

これらの結果から判断して、いずれの学科においても教育の成果や効果はかなりの程度あがっているものと判断している。

また、学生の卒業時満足度調査については、平成 19 年度より全学的に実施し、教養教育・専門教育、学習環境、事務局対応、課外活動、進路等、学生生活全般について詳細な回答を得ている。生活デザイン学科では既に十数年前から卒業時満足度調査を実施してきた。結果としては概ね良好な回答を得ているが、さらに設問を精査して情報を積み重ねる工夫をした上で、一層の教育効果をあげる努力をしたいと考えている。

**【分析結果とその根拠理由】**

平成 19 年度前期の「学生による授業評価」の結果の一部を各学科ごとに示すと、資料 6-D のようになった。各欄の最初の数値は、質問項目に対して「まあまあ」を含めた満足的回答の割合、後の数値は不満足的回答の割合である。また、平成 20 年度に行った卒業時満足度調査の結果の一部を各学科ごとに示すと、資料 6-E のようである。さらに、生活デザイン学科が毎年実施してきた卒業時の学生生活満足度調査の、平成 19 年 3 月の結果の一部を示すと資料 6-F のようである。

資料 6-D 学生による授業評価の学科別満足的意見の割合と不満足的意見の割合 (%)

質問項目	英語英文学科		国際文化学科		食物栄養学科		生活デザイン学科	
	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足
授業を真剣に聞いた	80.6	5.6	72.2	8.4	78.8	4.2	77.2	5.2
授業内容に興味をもてた	59.1	12.7	63.5	11.5	68.7	10.4	71.5	8.5

授業は全体的に満足できた	59.3	9.5	60.7	8.7	61.5	9.2	64.0	6.7
--------------	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----

(出典：別冊資料E 平成19年度前期授業評価アンケート結果)

## 資料6-E 平成20年度卒業時満足度調査の満足的意見と不満足的意見の割合 (%)

質問項目	英語英文学科		国際文化学科		食物栄養学科		生活デザイン学科	
	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足
教養教育のカリキュラム	73.4	6.3	83.1	0.0	68.7	6.0	69.9	3.2
専門教育のカリキュラム	65.6	9.4	82.8	1.4	76.2	4.5	68.3	12.7
視聴覚設備	76.2	3.2	75.3	2.9	73.5	1.5	58.7	7.9

(出典：別添資料6-1-③-1 平成20年度卒業時満足度調査結果)

## 資料6-F 生活デザイン学科の卒業時の満足度調査結果 (%)

質問項目	大変満足	満足	普通	やや不満	不満
授業のカリキュラム編成	18.6	49.2	30.5	1.7	0
授業の内容	22.0	45.8	30.5	1.7	0
講義、演習の設備	22.0	59.3	16.9	1.7	0
卒業研究担当教員の対応	40.7	39.0	15.3	5.1	0
本学での学生生活	64.4	22.0	11.9	0	0

(出典：生活デザイン学科平成18年度実施卒業時満足度調査結果)

資料6-Eからわかるように、カリキュラムに対する満足度は相当高いといえる。また、生活デザイン学科の満足度調査(資料6-F)でみると、殆どの項目で非常に満足とする意見が多く見られ、充実感を持って卒業していることがわかる。さらに、資料6-Fでは「不満」の回答は皆無であり、これからも満足度が非常に高いことがわかる。

以上の結果から判断して、本学が編成した教育課程を通して、意図した教育の効果があつたと学生自身が判断しているものと推察される。

**観点6-1-④：** 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

## 【観点に係る状況】

本学における進路決定率は非常に高く、四年制大学への3年次編入、さらに高水準の技術習得のための専修学校への進学、一般企業・公務員への就職等、学科によって多少の差はあるものの、過去5年間の全学の平均進路決定率は95.8%である。

英語英文学科では、四年制大学へ3年次編入する者が14%~29%であり、それ以外の者は就職している。編入する者の殆どは本学で培った専門教育を生かして、国・公立大学または有名私立大学の外国語学部・文学部・国際関係学部へ編入学をしている。おもな就職先は、金融、メーカー、官公庁、ホテル等など、岐阜周辺地域の中

堅一般企業である。なかには、語学力を生かして、海外との取引部門等に就職している者もいる。進路決定率は毎年非常に高い。

国際文化学科では、四年制大学への3年次編入が10%前後である。編入する者の殆どは、国際文化学科で学んだ専門分野をさらに生かそうとして、おもに国・公立大学の外国語学部・文学部・地域科学部・教育学部・国際関係学部などに編入学している。主な就職先は英語英文学科と同様、金融、メーカー、官公庁、ホテル等である。

食物栄養学科では、過去3年間に栄養士の資格を生かして就職した者が卒業生の36.2%、専門知識を生かして食品会社、製菓会社等に就職した者が15.8%、また、四年制大学の農学部系へ進学した者が4.1%いた。学科では、栄養士養成科目にとどまらず、管理栄養士を目指した科目も設定している。そのこともあって、過去2年間の卒業生の管理栄養士国家試験の合格率は、資料6-Gのように全国平均を大きく上回っている。

資料6-G 過去2年間の食物栄養学科卒業生の管理栄養士国家試験合格状況

年度	受験者の区別	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
平成19年度 (第21回)	全国の受験者	13,754	1,919	14.0
	本学の卒業生	50	22	44.0
平成20年度 (第22回)	全国の受験者	13,756	1,233	9.0
	本学の卒業生	47	13	27.7

(出典：厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室配布資料)

生活デザイン学科では、岐阜市周辺の地場産業であるアパレル・繊維関連産業、建築・インテリア関連企業へ就職する者の割合が約40%、それ以外の地元中堅一般企業への就職者が約27%である。また、四年制大学への編入や専修学校への進学者も20%いる。

各学科とも教育目標に即した優秀な人材が育っており、そのことが就職にしても進学にしても、ある程度本人の希望通りの進路に進むことができる背景になっている。

#### 【分析結果とその根拠理由】

過去5年間の就職内定率は資料6-Hの通りである。各学科とも殆どの学生が卒業時に就職を内定している。

資料6-H 過去5年間の学科別就職内定率

卒業年度	英語英文学科	国際文化学科	食物栄養学科	生活デザイン学科	全体
平成16年度	100	85.7	96.6	91.6	93.0
平成17年度	100	95.1	93.5	89.6	94.1
平成18年度	100	100	100	93.7	98.5
平成19年度	100	98.3	98.3	98.2	98.6
平成20年度	100	95.2	95.0	89.1	94.5

(出典：別添資料6-1-④-1 進路決定状況)

進学希望の学生は、殆どが国・公立の四年制大学や専門学校に入学しており、合格率はかなり高率である。過去5年間の各学科ごとの編入学・進学者数を資料6-Iに示す。

資料 6-I 過去 5 年間の学科別進学者数（カッコ内は卒業生数に対する比率）

卒業年度	英語英文学科	国際文化学科	食物栄養学科	生活デザイン学科	全 体
平成 16 年度	7 (14.3%)	7 (10.8%)	3 (4.8%)	8 (11.6%)	25 (10.2%)
平成 17 年度	13 (24.5%)	7 (9.7%)	3 (4.5%)	8 (11.9%)	34 (13.2%)
平成 18 年度	10 (19.6%)	9 (13.2%)	2 (3.0%)	12 (20.0%)	33 (13.5%)
平成 19 年度	8 (14.5%)	6 (8.7%)	2 (3.1%)	5 (7.9%)	21 (8.4%)
平成 20 年度	18 (29.0%)	4 (5.6%)	4 (6.1%)	9 (13.4%)	35 (13.2%)

(出典：別添資料 6-1-④-1 進路決定状況)

編入学生のなかには、後に大学院へ進学した者や、国内の有名なコンテストに連続入賞する者もおり、本学で修得した知識や技能が基礎的の力量になっていると考えられる。

さらに社会人になった本学卒業生で、育児のかたわらに P T A 活動や地域のボランティア活動などに参加して、指導的立場で活躍する者も数多く存在している。こうした事実も、本学の教育目標の一つであり、教育の成果や効果はあがっているものと判断される。

**観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。**

**【観点に係る状況】**

本学では毎年、2 月から 5 月にかけて、教職員がそれぞれ手分けをして、本学学生が採用された企業を中心に全体で約 60 社を訪問して、次年度の採用計画状況、採用時の条件、本学卒業生の勤務状況、本学卒業生に期待することなどを調査する過程で、卒業生の評価を聞いている。その結果、本学卒業生の評価は非常によい。特に「責任感が強い」「意欲的」「考えて行動」といった点が指摘されており、それらはまさしく本学の教育目標である。

また、企業で働いている卒業生を迎えての「先輩と語る会」などにおいて、講師として来る卒業生に積極的に前向きな態度や姿勢が見られる。

**【分析結果とその根拠理由】**

毎年、2 月から 5 月にかけて実施している教職員による企業訪問時に、人事担当者から卒業生の評価を聞くと、殆どの人事担当者が指摘する点は、①安心して仕事を任せられる責任感がある、②常に向上心があり職場改善にも積極的である、③たとえ失敗しても同じ失敗を繰り返さない、の 3 点である。

社会の一線で活躍している卒業生と在学生との懇談会における卒業生の態度や発言から、卒業生が向上心や積極性をもって活動していることが窺える。

これらはいずれも本学の教育の成果があがっていることを示していると判断される。

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

本学の優れている点としては、以下の3点が挙げられる。

まず、学生の授業評価結果から見て、学生の勉学意欲が高く、授業・学生生活への満足度が高いことである。資料6-Dに示したようにすべての学科において、授業に満足している学生がほぼ60%以上、不満足な学生は10%以下になっている。とくに生活デザイン学科での卒業時の満足度調査では、講義・演習の設備に対する満足度、学生生活に対する満足度は80%を越え、卒業研究を担当した教員の対応に対しても79.7%という高い満足度を示している。学科の特徴である多くの演習・実習科目の授業を通して、教員との信頼性を築いているものと思われる。

つぎに、卒業後の進路について、卒業時の就職内定率が非常に高いことである。過去5年間の大学全体でいずれも93%を越え、特に英語英文学科では5年連続して100%であった。教養教育・専門教育を通して、企業が期待する人材の育成が効果的になされているものと思われる。

三つ目は、平成15年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に生活デザイン学科の『デザインを通じた地域との連携による教育』が採択されたことである。生活デザイン学科では実践的教育効果をあげるため、十数年前から公開の卒業研究発表会を学外の会場で実施するとともに、岐阜市の地場産業であるアパレル企業や組合と連携して様々な教育的事業を展開し、また岐阜市や岐阜市立図書館とも手を組んで公開講座を実施してきた。これら教育的事業が特色ある大学教育として、教育的効果を挙げていると認定された。

#### 【改善を要する点】

学生に対する学生生活満足度調査については、現在のところ2年間のデータしかないので、質問項目を精査した後、今後も継続実施して、教育の成果を適切に測定できる調査に変えていく必要がある。

学科の教育目標の中で具体的な取得資格などをあげている場合には、その達成状況を追跡して、達成できていない目標に対して、どのような方策をとっていくか検討して行く必要がある。

### (3) 基準6の自己評価の概要

本学が養成しようとする学力、資質・能力の達成状況の検証については、学期末試験や各種レポート・制作物による評価などによって行い、総合的な達成状況の検証・評価のための取組としては、「ゼミナール」「卒業研究」を実施している。

教育の効果や成果については、各学科とも単位取得、卒業、資格・免許の取得状況から、達成しているものと認識している。特に生活デザイン学科においては、学外で公開の卒業研究発表会、地元産業界や岐阜市とのコラボレーションを実施して、この取組が文部科学省平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択され、地域社会に広く認知されて高い評価を得た。

教育の効果や成果の達成に関する学生自身の判断については、学生による授業評価の回答結果から、学生の多くは全体的に受講することに意義があったとしている。生活デザイン学科の卒業時の満足度調査においては約80%の学生が満足と答えており、不満足と答えたものは数%にとどまっている。

卒業後の進路状況については、殆どの学生が取得できる資格・免許を取得して、進路を決定して卒業している。また、各学科で実施している先輩と語る会の講師として来る卒業生は、その態度や発言から、職場において向上心や積極性をもって活躍していることが窺える。さらに、教員の企業訪問などでは、人事担当者から本学卒業生を高く評価しているとの声を聞いている。

以上のように、岐阜市立女子短期大学における教育の成果は、全体的に見て基準に達しているものと認識している。